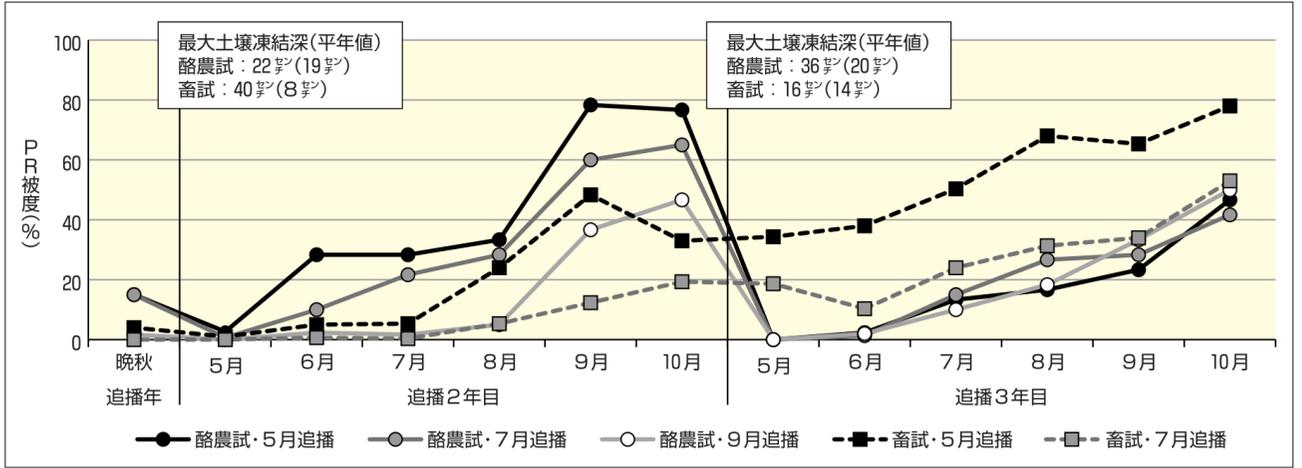


図 PRを異なる時期に追播した草地におけるPR被度の推移(播種量:2.0^{kg}/10^a、2018年追播)(追播年晩秋の被度調査日:酪農試11月7日、畜試10月25日)



北海道東部 土壌凍結地帯におけるチモシー主体放牧地への

ペレニアルライグラス追播法

北海道立総合研究機構
 農業研究本部 畜産試験場
 畜産研究部 飼料生産技術グループ

ペレニアルライグラス(以下「PR」)は、道内で栽培される主要なイネ科牧草の中では越冬性が劣り、凍害に弱い。そのため北海道東部の土壌凍結地帯では基幹草種として利用することが困難とされています。一方で、PRは栄養価や採食性、秋の収量性が優れることから、土壌凍結地帯においても栽培を希望する生産者は少なくありません。そこで、道総研酪農試験場(中標津町、以下「酪農試」)と道総研畜産試験場(新得町、以下「畜試」)において、放牧地を対象にPRを追播しながら利用することを想定した試験を行いました。ここでは既存のチモシー(以下「TY」)主体草地に対し、複数の時期にPRを作溝法で追播し(播種量:2.0^{kg}/10^a)、放牧を模した多回刈りを行った結果を紹介します。

PR追播時期と定着の良否

5月追播で被度高まる

追播年晩秋のPR被度は、酪農試の5月追播区および7月追播区で、PR被度が高くなり、酪農試の5月追播区では9月以降で、酪農試の7月追播区では8月以降で、酪農試の5月追播区では8月下旬以降にPR被度が高くなりました。一方、酪農試の7月追播区では、酪農試の5月追播区と同様の傾向がみられ、5月追播区では8月下旬以降にPR被度が高くなりました。酪農試の7月追播区では、酪農試の5月追播区と同様の傾向がみられ、5月追播区では8月下旬以降にPR被度が高くなりました。酪農試の7月追播区では、酪農試の5月追播区と同様の傾向がみられ、5月追播区では8月下旬以降にPR被度が高くなりました。

作溝法で追播 播種量は10^a当たり2.0^{kg}

角谷 芳樹

も被度は大きくは下がり、7月以降に上昇し続けました。なお、5月追播区は7月追播区と比較して、年間を通してPR被度が高く推移しました(図)。

PR追播による乾物収量の増収効果

秋に20〜50%の収量増

PRを追播した区の乾物収量を無追播(TY優占草地)と比べると、春は少なく、夏は同程度、秋は多い傾向でした。秋だけみると、乾物収量は20〜50%増加すると考えられました。

PRの追播導入時の安定的な定着を目指すための維持管理方法

PR追播後の被度の推移には試験場所間で違いがありました。特徴的だったのは酪農試で追播2年目に被度の上昇が早かったこと、畜試で追播3年目も5月追播と7月追播の差は縮まらず追播時期が早い5月追播の方が高い被度で推移したことです。これらは、年間刈り取り回数や冬季の越冬条件に違いがあったためと考えられます。

追播後の刈り取り回数と追播年秋のPR被度との間には正の相関係数が認められました。追播後の利用回数が増加することで、既存植生であるTYが抑制さ

終活のすすめ

道北のある町の終活セミナーで、参加者に痴ほう症と認知症の違いについて質問をしたところ、初老の男性が拳し、痴ほう症はボケ、認知症は徘徊と元気に答えてくれました。

痴ほう症と認知症の違いは?

あると国民の指摘に比べ、痴ほう症の呼称を認知症に変更いたしました。また、認知症とは病名ではなく、認知機能の低下によって共通の症状のある病気のグループ名称(症候群)で、症状の違う認知症にはそれぞれの主な病名(病名)があり、その病名が原因となり脳神経を破壊し認知症状となるそうです。具体的にはアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症などは神経変性疾患、脳血管性認知症、脳梗塞、脳卒中、脳腫瘍、脳神経疾患といわれています。高齢者5人に1人が認知症になるといわれる時代、学びの一つにしまし